

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670200421		
法人名	社会福祉法人 平成記念会		
事業所名	グループホーム鳴門		
所在地	鳴門市撫養町木津字防崎445番地1		
自己評価作成日	平成25年6月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成25年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の意向を外出支援や趣味活動に取り入れるように取り組んでいる。外出支援では“馴染みの場所”の聞き取りを行い、実際に訪ねることができるよう支援している。また、積極的に外食や買物等へ出かけている。趣味活動やレクリエーションの際には、利用者一人ひとりののできることやできそうなことを把握し、日ごろの活動に参加してもらうことで、充実した生活を送ることができるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅地のなかに位置しており、併設の通所介護事業所とともに地域活動に取り組んでいる。運営推進会議では、地域の多数の方の参加を得て活発に意見交換を行っており、出された意見を運営面に反映している。管理者が中心となり、全職員で“地域住民との交流を通し、自由・尊厳・歓びのある生活の自立支援を行う”という理念の実践に取り組んでいる。事業所では、利用者一人ひとりの力量に応じた楽しみや趣味活動を充実させるための支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送りの後、職員全員で理念を読み上げることで常に意識し、実践に繋がれるように努めている。	事業所では、“自由”“尊厳”“歓び”の理念を掲げ、利用者が地域住民と交流するなかで、これらを実現することができるよう支援している。また、3つの実践目標を定め、利用者が自立した生活を送ることができるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩中に挨拶を交わしたり、お庭を見せていただいたり、ボランティアの方を受け入れる等、地域行事以外にも日常的な交流が出来ている。	事業所では、地域活動に積極的に参加したり、事業所の行事に協力してもらったりして、日ごろから近隣住民と交流している。利用者の作品を地域の展示会に出展している。老人会の会合では、認知症の理解に向けた啓発活動にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会や地元の老人会、運営推進会議などで認知症の話をしていただき、理解をしていただけるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	目標達成計画の取り組み状況の報告やサービスの提供に当たっての現状等に関して御意見いただき、その内容を実際に活かせるようにしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催し、多くの委員の参加を得ている。事業所の取り組みや研修報告、改善課題と目標達成計画の進捗状況等について意見交換を行っている。出された意見は、詳細に記録を行って運営面へ反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に報告に伺ったり推進会議に市役所の方へ出席していただいている。また電話で相談したり、その都度対応していただいている。	市担当窓口へ毎月の現況報告を提出する際、事業所の取り組みを伝えたり、課題発生時には電話で相談したりしている。事業所の会議に市担当者にも参加してもらっている。また、月2回は介護相談員の来訪を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を行い職員全員が理解に努めている。日中は玄関を開錠している。	定期的に身体拘束の廃止に関する勉強会を開催し、全職員が身体拘束の内容と弊害について理解している。利用者の意思と人権を尊重しつつ見守りを続けることで、自由で安全な暮らしの支援へと繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会をし、職員全員が理解に努めている。鳴門市介護相談員やボランティアの受け入れ等、外部との関わりを持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に権利擁護に関する勉強会を行い、制度を理解できるようにしている。推進会議で議題として取り上げ、より身近に意識できるように考える機会を設けている。包括の方に制度の説明をしていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分に取し、利用者や家族が不安に思われていることを理解し説明を行っていくことで納得して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、家族へのアンケートの実施、推進会議や面会に来られた際に意見をお聞きし、運営に反映できるようにしている。	日ごろから職員は、利用者との会話のなかで一人ひとりの思いの把握に努めている。家族の来訪時には、積極的に話しかけたり、年2回のアンケート実施や意見箱を設置したりして、積極的に働きかけている。出された意見や要望は職員間で検討を重ね、速やかに運営面へ反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に1度職員会議を行い、意見や提案を聞くことで反映している。またそれぞれ気付きがあれば報告するようにしている。	月1回、職員会議を開催して話しあい、出された意見や提案を運営面に反映させている。日ごろから管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にしており、職員の気づきや思いには耳を傾けるよう心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間を作ることでリラックスできる時間を作っている。1年に1度人事考課を実施し、努力や評価実績を把握できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内で1か月に1度勉強会を行っている。また全ての職員が順番に研修を受ける機会を設けており、レポートの提出や伝達研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会等の研修の機会を利用したり、随時電話等での連絡を行う等、サービス向上の為、同業者と関わる機会を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して入所していただく為にも初めに施設の見学を勧めている。本人様と面接をし、事前に本人様の意見や要望を聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が面会に来られた際などに不安に思っている事などを職員から聞くようにし、気兼ねなく話せる様な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族と話し、どの様なサービスを求めているのかを聞き取りながら必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の昔の話は興味深く、できるだけ教わる姿勢を持つようにしている。得意な部分を引き出し、個々の能力を発揮することで職員と共に生活するという関係性を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時などには墓参りや馴染みの場所に外出していただいている。また家族が通院の協力をして下さっている方もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様、家族に馴染みの場所を聞き取り外出できるように努めている。地元の方は、地域行事で友人や知り合いに再会される方もいる。	事業所では、利用者の馴染みの人との交流や外出の支援を目標達成計画に定めて取り組んでいる。商店や図書館への外出、故郷の訪問、電話や手紙のとりつきなど、利用者の希望にそった支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや慰問、外出時などの席は利用者同士の関係性を把握した上で決め、不愉快な思いをさせない様に努めている。また利用者同士でトラブルが生じた時は職員がすぐに間に入るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方でも本人様の精神的負担の軽減の為、馴染みの職員がお見舞いに伺うようにしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から本人様の気持ちを汲み取れるように努力している。困難な場合は家族に御意見を伺っている。	日ごろから職員は、利用者との関わりのなかで、一人ひとりの些細な行動やつぶやきを大切に捉えて支援している。利用者が“その人らしい生活ができるよう支援する”との実践目標を立てて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人様の日常会話の中で馴染みの暮らし方を伺うなどして情報収集を行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りの際に職員間で情報共有をしている。また休みの職員にも申し送りノートを通して伝達できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族、職員間で他職種と話し合いを行い、ケアプランに反映させている他、ケアプランに添ったサービスが提供されているか、毎日の評価も行っている。	利用者や家族、関係者間で話しあい、本人のより良い暮らしの実現に向けた介護計画の作成に努めている。毎日、介護計画にそったサービスの提供ができていないかを確認して記録し、現状に応じた見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に介護記録を記入している。できるだけ詳しい記録を心掛け、状態が変化した場合にも早期に気付けるようにしているが、個々のカンファレンスで決めたことが継続できていないときがある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の個々の体調に合わせて買物やドライブに出かけるなどして臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	2階	
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
			外部評価 次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に参加して頂いたり地域の行事に参加し地域の方々と関わりが持てるようにしている。ボランティアの方に書道を習ったり、慰問に来て頂いたりして交流を深めている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば昔からのかかりつけ医に受診出来るようにしている。理解力の低下に伴い、検査が難しくなった方でも、安心して診てもらえるし、受診に行くことに抵抗を示す方でも拒否が少ない。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。年1回、同一法人の運営する医療機関で健康診断を行っている。また、専門医への受診には職員が同行している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調に変化が生じた時は、協力医療機関の看護師に連絡し指示を仰いでいる。また、定期的に受診に行くようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が入院先に面会に行き状態の把握や家族と話をしている。入退院に関してSWと情報交換を行っている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について勉強会を行い知識を身につける様努めている。終末期には本人様の意向を聞き取り喜びや生き甲斐を見出せるような支援に取り組んでいる。	早期段階から、利用者や家族に重度化した場合や終末期の対応について、事業所でできることを説明している。医療機関や関係者と連携を図り、状況の変化に応じた支援に取り組んでいる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にAEDや応急手当の勉強会を行っている。事故発生時、直に対応できるようマニュアルを詰所の分かりやすい場所に貼っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っており、その際地域の方にも参加して頂いている。災害時の避難場所についての把握と共に非常食の準備をしている。	年2回、消防署の協力を得て避難訓練を行っており、地域住民の参加も得ている。訓練後、課題や検討すべき事項等を運営推進会議の議題として取りあげている。災害時用の物品を備蓄している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格や状況に応じて声かけや対応を行うようにしている。排泄時、プライバシーに配慮した声かけを行い、居室のドアは必ず閉めるようにしている。	職員は、理念である“尊厳”について十分理解しており、プライバシーや誇りを損なうことのないよう注意して、声かけや対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の表現の仕方によっては本音を見抜いたり、表情を判断材料にする等の配慮が必要である。単純に会話の中から意向を聞きだすことは容易ではないが、理解する姿勢を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	したい事をお聞きし、できるだけ希望に添えるようにしている。また気が向かない利用者には無理のないようこちらから提案する時もある。できるだけ業務が優先にならないように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や入浴の際、自分で服を選んでいただいている。散髪時には好みの髪型になるよう声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に合わせて台拭きや食器洗いを手伝っていただいている。また出来る方には材料の下ごしらえ等も手伝っていただいている。	利用者は、食事の下ごしらえや台ふき、食器洗いなど、一人ひとりが役割を担っている。笑顔のあふれる楽しい雰囲気の中、職員も同じテーブルを囲んでさり気なく支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の口腔の状態に応じて刻み食やトロミ食を提供している。食事量、水分量をチェック表に記入し、管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後行っている。状態に応じた洗口液を使用していただいている。義歯は毎晩洗浄剤に入れる等管理している。必要に応じて歯科受診を勧めている。		

自己	外部	項目	2階		
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者によって排泄の感覚が違うため、その人に合わせた声かけ、誘導を行っている。パット、紙パンツ等は個別に使い分けをしている。オムツを使用されている方も状態によって適宜必要性を確認している。	職員は利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけや誘導に努めている。排泄パターンを把握することで、トイレでの排泄やおむつはずしに向けて取り組んでいる。	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の申し送りをし、有無を確認するようにしている。こまめな水分の摂取や、その人に合った運動を勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ希望に添えるようにしている。居室で入浴日を確認していただけるよう表示したり、管理の難しい方には声かけを行っている。	利用者の希望にそった入浴の体制を設けている。一人ひとりの体調やタイミングを見計らい、くつろいで入浴することができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ゆっくり休んでいただけるよう、昼間にレクリエーション、散歩、運動等工夫して活動している。体調等により、日中居室で休んでいただく場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が個々の内服薬や用法等を把握できるようにファイルを作成している。また薬の変更などあった場合は申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔の趣味や得意な事などの聞き取りをし、全体のレクリエーションの他に個々に合わせた活動も行っている。また季節に合った行事を工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣、花見、遠足等の行事での外出の他、馴染みの場所、希望の場所を聞き取り、外出している。また地域でのイベントにも参加している。	日ごろから、利用者は散歩に出かけており、季節によっては、花見や遠足、初詣等を楽しんでいる。また、地域行事へ参加したり、利用者一人ひとりの希望にそって商店や図書館、懐かしい場所への訪問等を行ったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が可能な方はご自分で所持されており、買物の時支払いされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望により、家族や知人に電話を掛けられている。携帯電話を所持され利用されている方もいる。また年賀状は毎年書かれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただく為、季節にちなんだ壁画を利用者様と一緒に作成している。共有スペースは窓から暑さを和らげる為、夏には簾を立てかけたり、室温、臭い等にも配慮している。	すべての居室が広々としたフロアに面している。壁面には、季節の飾りつけや利用者の作品を掲示している。南面の大きな窓からは、明るい日差しが差し込んできており、窓際のソファは利用者たちのくつろぎの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の休憩場所があり、テーブルの椅子とは違った感覚で利用者同士が座り、楽しく談話されるスペースになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの方が使い慣れた家具等を使用されており、タンスの上には写真を飾ったり、壁に自分の作品を貼ったりされている。	利用者は、居室に使い慣れた家具や思い出の品、家族の写真等を持ち込んでいる。事業所は、一人ひとりにとって居心地の良い居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全のため、障害物は置かないようにすると共に広々としたスペースを確保している。また個別に滑り止めマットを置く等、転倒防止に努めている。自室が分かりにくい方には目印を付ける等している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に管理者及び職員は理念を復唱し、意識の向上に努めている。また理念に基づいた実践目標を設定し、日々のケアに活かせるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近くの喫茶店へ出向いたり散歩時に挨拶をするなど日常的に交流できるよう努めている。またボランティアの方の受け入れや地域のお祭りへも参加させていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会や地元の老人会、運営推進会議等で認知症に関する話をさせていただき、支援の方法などを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所の取り組み状況等を報告し、アドバイスをいただいたりしている。会議の内容や意見は職員間で共有し、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者が出席しており、事業所の実情や取り組みを伝える機会となっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し、身体拘束にあたる具体的な行為について学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみとし、最小限に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止についての勉強会を開催している。利用者への言葉使いや態度、ケア等において振り返る機会となっており、職員の意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	3階	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的	定期的に勉強会を行い、資料の閲覧やレポートの提出をすることで知識の向上、支援につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間	十分な時間を取り説明を行っている。また家族の不安や要望の聞き取りも行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置	意見箱の設置やアンケートの実施などを行っており、また面会時にも意見などを聞きとることで運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的	定期的に職員会議を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。また個別に報告する時間も設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課	人事考課を実施し、個々の職員の実績や勤務状況を把握するようにしている。また個々の能力に応じた役割分担により得意分野を活かし、やりがいや向上心を持って働く工夫をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会	研修や勉強会などに参加する機会を設けている。またレポート等を提出することで他の職員への伝達も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に積極的	研修に積極的に参加したり、連絡を取りあったりすることによってサービス向上の為にモチベーションを上げられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	3階	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはご本人や家族と面談し、不安、要望や意向、生活習慣などを確認し、気持ちに添えるよう努めている。					
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には家族の思いについてよく話を聞いている。また家族への報告や連絡を密に図っており信頼関係の構築に向けて取り組んでいる。					
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には必ず面談を行い、入居に適しているか見極めるようにしている。必要に応じて他のサービス利用についても提案する等の対応を行っている。					
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方向的に支援するのではなく、昔の慣わしや得意分野等、習得した知恵を教わりながら、個々の能力を発揮していただくと共に介護する立場の職員と対等な関係を築けるように配慮している。					
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には近況報告をしたり、面会に来られない家族には手紙や電話で日々の様子を伝えている。本人を共に支えていくため協力関係が築けるよう個々に対応している。					
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や店へ行く事に力を入れており、関係が途切れないよう支援している。また地域の行事に参加し、交流を図っている。					
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が安心して関わられるよう、職員が間に入り対応しているが、人間関係にストレスを抱えているかたもおられ、もっと細やかな配慮が必要と感じる。					

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員同士の連絡を行いながら定期的にお見舞いに伺って状況の報告を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を定期的に見直し日常生活を通して状態の低下防止の為の様子観察の強化に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中で話される事などを把握し、喜ばれる場所やしたい事などの取り組みに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態を把握し、レクリエーションや学習療法を勧めている。些細な変化でも申し送りを心掛けている。また状態が変化した場合にはすぐにカンファレンスを実施しケアの方向性を統一できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスなどを通してそれぞれの意見や本人の現状に向けた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での情報を共有し、気付きやアイデアを出し合い、介護計画に活かせるように伝達を行っているが、伝達不足で伝わってなかったり、カンファレンスを皆で共有したはずが、実施に繋がられていない時がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家に帰りたい、外食したい、お茶を飲みにいきたい等、個々の要望に合わせて日常的なお出掛けに力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方にお越しいただき、利用者との関わりの中で歌や踊り等、楽しい時間を共有していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様がサービスを受ける際、家族と共に意向の聞き取りを行い、それにそう形で対応を行っている。また入居後はかかりつけ医との連携を深め状況に応じたアドバイスをいただくようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師に日々変化する利用者の状態を報告して適切なアドバイスをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に利用者の心身の状況に関して情報提供を行い、病院関係者が迷うことなく治療ができるように努めている。入院中は情報交換を密に行い、早期退院に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービスの利用の契約時に終末期や重度化した際の看取りの指針について説明を行い、本人様や家族の意向を聞いてそれに沿うように支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について定期的に勉強会を実施してマニュアル等は見やすい場所に展示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中と夜間を想定して避難訓練を実施し、消防員より指導を受けている。その際に地域住民の方にも参加していただき協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	3階	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	私たちの先輩だという気持ちを持ち、敬う気持ちを持ち、声かけや一人ひとりに合った援助をさせていただいている。入浴時、排泄時などプライバシーに配慮している。					
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特に男性は意思表示される方が少ないので、会話の中の些細な言葉にも耳を傾け、意向の把握に努めている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日にしたい事があれば、その都度取り組むようにしている。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は本人に選んでいただいている。外出の際などには化粧をされている方もいる。2ヶ月に1回の美容室の日を楽しみにされている方もおられ、好みの髪型にいただいている。					
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事が得意な方に分担して手伝っていただいている。またおやつ作りや夕食作りなども手伝っていただきながら同時に楽しんでいただいている。					
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりチェック表に記入し、把握に努めている。食べる量が少ない方には好きな物を提供したり、カロリーが高いものを勧めたりし栄養状態を保っていただけようようにしている。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声かけを行っている。口臭がひどい方には洗口液を使用していただく等し清潔を保っている。					

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			3階 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ紙パンツやパットの使用を避けるため、個別に排泄パターンをチェック表で確認し、声かけ、トイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を飲んでいただいたり、水分補給や食事量に注意し、適度な運動を行うことで自然排便に繋がるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したい時間帯や希望を聞き、入浴剤を入れたり、個人持ちの気に入ったシャンプーを使用していただき、入浴を楽しめるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーションや散歩を実施し、日中の活動性を高めている。寝る前に水分補給や足浴をしたり、不穏な方には話を傾聴する等し、落ち着いて休んでいただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスがないよう前日に薬のダブルチェックを行っている。個々の薬の用法、用量を把握し、変更の場合などは申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯、食器洗い等をお任せし、意欲を持って仕事に取り組んでいただいている。花の世話、習字、縫い物等興味のある事を個別レクとして行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の馴染みの場所を聞き取る等して外出支援を行っている。外出の意志が聞きとれない方に対しては、家族に何う等して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	3階	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様、家族の希望により、自己管理できる方は少額ではあるが、自身で管理されている。また管理できない方は、職員で管理を行っているが、支払いを自分でしていただく等の配慮を行っている。					
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る方は年賀状を自分で作成して家族にお送りしている。また家族の希望もあり、携帯を個人で持ち電話されている方もおられる。一人ひとりの希望に応じて対応を行っている。					
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた温度、湿度の管理を行っている。日光が強い時等はカーテンを閉めたり、簾を利用する等その都度対応を行っている。また季節感を感じていただけるように毎月壁面飾りを作成している。					
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにおいては、テーブル等の配置を工夫し、気の合う利用者同士が快適に過ごせるようにしている。					
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた使いなれた家具を持ってきていただき、本人様が使いやすい配置を考える等、安心できる空間づくりを工夫している。					
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に危険が無いように、ホールに余計な物は置かず、スムーズに動けるようにしている。居室内も動線を考えた家具の配置を行ったり、居室前に目印を付ける等個々に対応している。					